

# インフラ整備による 持続的経済成長と地域振興をめざして

八戸学院大学 地域経営学部 教授 奈良 卓

少子化が進行し人口減少が進む現代の我が国においても、地域振興の手段として、具体的には地域への産業の集積と土地の有効利用を促し、出生率を高め、ひいては経済成長率を高める手段として、適切なインフラ整備が有効であることを経済学の視点で証明することをめざし、研究に取り組んでおります。



## ミクロ経済学・入門

柳川 隆、町野 和夫、吉野 一郎

経済学の研究を進める第1歩として、家計や企業といった経済活動を営む主人公（経済主体）による生産、消費といった経済活動のあり方を理解する必要があります。ミクロ経済学は、このような個々の経済主体に焦点を合わせた学問であり、たとえば、家計と企業の取引によって価格がどのように決まるかを解明します。この書は難解な数式を用いず経済活動のあり方を解説するとともに、規制のあり方や社会保障等、実生活に即した話題もとりあげます。



## 入門 公共経済学

土居 丈朗

公共経済学は、自由な経済活動に委ねることにより、社会全体に不利益が及ぶ場合、かかる不利益を解消するため、政府等の公共部門が経済活動にいかに関与すべきか、規制の根拠と方法を明らかにする学問であり、地域振興の政策はどうあるべきかを考えることにも応用できます。この書は、最近年における日本経済が直面する課題に着目しつつ、社会全体の利益を確保する上で望ましい課税の方法、公共料金のあり方等について解説します。



## 入門マクロ経済学

中谷 巖

マクロ経済学は、国や地域といった広い範囲における経済活動を研究対象とする学問であり、一国の生産や所得の水準を決定する要因は何か、国家間で経済成長の格差が生じる理由は何か、景気が良くなったり悪くなったりする理由は何か、景気を良くするためには、誰が、どうすればよいのか等を明らかにする学問です。この書は、初版発行以来、多くの読者に親しまれてきたマクロ経済学のテキストであり、現代の日本経済の問題にも焦点を当てます。



## 都市・地域経済学への招待状

佐藤 泰裕

都市で暮らすか、地方で暮らすか、都市や地方に住むことそれぞれのメリット、デメリットを、ミクロ経済学の視点から解明する学問が、都市経済学及び地域経済学です。この書は、都市と地方の間の移住が、なぜ発生するのか、都市の大きさはどのように決定されるのか、都市や地域において地価（土地の価格）や地代（土地の賃貸料）は、どのように決定されるのか等を、都市経済学及び地域経済学の視点から、わかりやすく考察します。



## 人口減少下のインフラ整備

宇都 正哲、植村 哲士、北詰 恵一、浅見 泰司 編

この書は、人口減少が進む現代の我が国において、インフラ整備をいかに進めるべきか、検討すべき課題を明確にした上で解説します。インフラ整備のあり方について、この書が取りあげる課題は、インフラ整備の効果を高めるためには、どこに、どれだけの規模のインフラを整備すべきか、また、インフラ整備に伴う負担について世代間の公平をいかに確保するか、さらに、技術面も含め、インフラをいかに持続させるか等です。



## 高校数学の美しい物語

マスオ

経済学の研究を深めるには、私たちの家計による消費、将来に備えた貯蓄、企業による生産、新たな技術の開発も含む設備投資といった経済活動を、複数の数式を用いた経済モデルとして表し、数学的に展開し、解き明かす必要がありますが、それらに必要な基礎は、高校以前に学ぶ数学にあります。この書は、数学に親しみをもつことを念頭におき、高校以前に学ぶ数学に焦点を当て、基礎から応用まで順序立てて説明が展開されています。



## 大学生に知ってほしい 日本経済の今とこれから

鈴木 亮

経済学は、私たちの生活そのものを対象とする学問です。経済学に親しむには、手始めに、私たちが暮らす国や地域で、現在、何が問題となっているのか、今後どうなるのか、理解することが何より重要です。この書は、日本経済の現状を、米中の対立等現代の世界の情勢と関連づけながら解説するとともに、少子高齢化の進展により、社会保障はどうなるか等、日本経済の将来を考察し、展望します。



## Newton 別冊 確率と統計

ニュートンプレス編

地域を対象とする研究も含め、経済学の研究を洗練させるには、現実のデータを様々な視点から分析し、経済の動きをとらえる手法（実証分析）が有用です。そして、実証分析を理解する上で、必要になるのが、確率や統計学ですが、確率や統計学の知識や方法が、日常生活で会うどのような問題の考察に役立てることができるか、様々な具体的事例をとりあげ、初学者の方にもわかりやすく解説します。



## 復興の空間経済学

藤田 昌久、浜口 伸明、亀山 嘉大

空間経済学とは、私たちが生活する都市や地域といった地理的空間を対象とする学問であり、都市経済学、地域経済学の知見も取り込み、近年、発展してきました。この書は、東日本大震災からの復興、かつ、地域が、今後とも、安定的に存立することを願いつつ、現代の日本経済が直面する人口減少が都市構造に及ぼす影響、また、東京近辺に人々や企業が集積する東京一極集中が起きた理由等を、わかりやすく解説します。



## 検証 むつ小川原の30年

江波戸 宏

全国総合開発計画及び新全国総合開発計画が掲げる地域間の均衡ある発展のため、「拠点開発方式」による工業の地方分散をはかる方針のもと、「むつ小川原開発計画」が策定されましたが、2度のオイル・ショックを経て、核燃料サイクル施設誘致へと方針転換し、当初の計画は事実上挫折しました。この書は、人口減少と衰退が著しいゆえに、有効な地域振興策が必要とされる、私たちの故郷である青森県の開発の歴史を学ぶ上で、必読の書です。

八戸学院大学  
地域経営学部 地域経営学科 教授

な ら たかし  
奈良 卓

1965年青森県むつ市生まれ、東京大学経済学部卒業後、東北電力株式会社に勤務、その後、東北大学大学院経済学研究科に学び、1998年より、八戸大学商学部（当時）の専任講師として就任。2018年より現職。専門はマクロ経済学（インフラ整備、土地の有効利用、持続的経済成長）。



ハブブックセンター  
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町 16-2 Garden Terrace 1F  
TEL 0178-20-8368 web <https://8book.jp/>